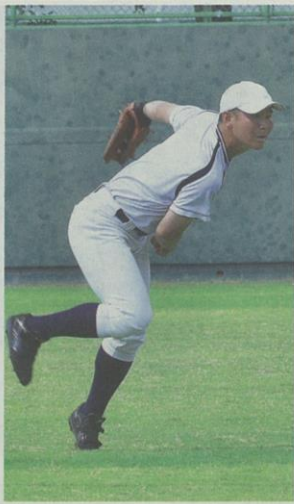


これまで迷惑ばかり掛 八学星の中軸を担い、主の花岡小次郎。パンチ力が
 けてきた。青森県大会で、力して夢舞台に臨む3年。持ち味だが、意外にも甲子
 園には縁がなかった。

初の夢舞台 奮闘誓う

けがに泣いた中軸・花岡



第98回全国高校野球選手権大会の開会式で、入場行進する八学星ナイン。甲子園



光星ナイン堂々行進

守備練習に励む八学星の
 花岡小次郎。けがに泣か
 れ続けたが、初めて甲子
 園のメンバ入りを果たし
 11日、兵庫県西宮市の大
 阪カブツ野球場
 には縁がなかった。
 負傷の連続だった。現予
 一ムが開始した直後の昨年
 8月、バント練習で指を傷
 折。主力として期待されて
 いたが秋季県大会、続く東
 北大大会はともに出番がな
 く、センバツのメンバ入
 りも果たせなかった。次
 こそは、と意気込んだ春
 県大会も、左膝の半月板損
 傷でベンチ外となった。
 それでも諦めずに練習に
 取り組んだ。その姿を指揮
 官は見ている。「長打で走

⑬ 太田聖大(3年)＝大阪・上小阪中出



甲子園だよ!
 開会式は観衆のすざとひ
 っくりしました。行進して
 る時も、こんなに人が多いも
 のなんだと感心しました。あ

開会式の観衆すごい

開会式は観衆のすざとひ
 っくりしました。行進して
 る時も、こんなに人が多いも
 のなんだと感心しました。あ
 りました。行進して
 る時も、こんなに人が多いも
 のなんだと感心しました。あ
 りました。行進して
 る時も、こんなに人が多いも
 のなんだと感心しました。あ

者をかえってほしい(仲大願。優勝に貢献し、夢をまきた。
 井奈景監督)とパワーを見
 込まれ、最後の夏に出番が
 回ってきた。
 以上を観衆に語られたクラ
 ムに貢献できなかった
 チームに貢献できなかった
 た悔しさをぶつけ、6本の
 来春まで、いろいろあった
 二塁打を含め打率4割超と
 な。さぞまな思いが頭
 奮闘を誓った。(林泰輔
 の中でフレイできたらうれ
 しいです。
 朝は早い、日中の暑さ
 厳しいですが、試合では夏
 時間は極力暑さを感じない
 る。でも、朝は強い方
 ので、目標は強い相手
 9日の初戦の相手は、池
 を例して勢いに乗っていき
 一ム。映像を見ると、主軸の
 ホールがエントリ回廊にい
 るように見えたので、出番
 があったら、大振ります。コ
 ントに振る振きたいです。

「春にはない雰囲気」

○…八学星の奥村幸太主
 将にとって、甲子園の開会式
 は昨春、今春に続いて3度目
 だが、夏は初めて。照り付
 ける日差しと、4万3千人の観
 衆の熱気が入り交じる会場
 に、「春にはない独特の雰囲
 気。鳥肌が立つほど興奮し
 た」という。
 3年生になって初めて経験
 する夏は、最後の夏でもある。
 現地入りしてから1週間、
 「自分たちの集大成の大会
 が、いよいよ始まった」と
 の思いを強くした様子。「み
 んなで声を掛け合って、全
 力を出し切って戦う」と決意
 を新たにしていた。



開会式後の取材に答える
 八学星の奥村幸太主将

「来年はあの舞台に」 光星・向井
 ○：開会式に臨む八学光
 星ナインの姿を「素晴らしい
 下から見守った部員の中に
 は、夏の青森大会で控えの左
 腕としてメンバ入りした3年
 の向井詩恩(三沢二中出)の
 姿もあった。
 現地に入る直前にメンバ
 ーから補われた。自分で自
 分「理まつ、先輩への全力サ
 ポ」と気負もあったが、「実
 トを無した。」



先陣の行進をスタンドから見守る八学星の
 向井詩恩(前列左から2人目)ら

第98回全国高校野球選手権は7日、兵庫県西宮市の甲子園
 球場で開かれた。青森県代表として5年ぶりの甲子園の出場と
 なった八学星ナインは、開会式で堂々の行進を披露。全国
 の代表各校による熱い戦いの火ぶたが切られてきた。
 開会式は南の高校から順に入場した。47番目に登場した光
 星ナインは、青森大会の優勝旗を掲げた奥村幸太主将を先頭
 に、目黒部(元氣)の良い掛け声に合わせ、思い切り手を振
 って足並をそろえた。

第98回
**全国高校野球
 選手権大会**
 ▼第1日

約4万3千人の観衆が見守る中、選手宣誓では市尾倫(兵
 庫)の前田大輔主将が「これからの100年も高校野球の歯
 さまに愛される存在であり続けよう。未来への懸け橋と
 して、甲子園で一生懸命最後まで「闘う」と力強く誓っ
 た。開会式後は1回戦3試合実施した。
 光星ナインは8日、午後から約7時間、同市の大原又
 今津総合グラウンドで、打撃練習を中心に初戦に向けて調整
 した。(林泰輔)